

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-360126

(P2002-360126A)

(43)公開日 平成14年12月17日(2002. 12. 17)

(51)Int.Cl.	識別記号	F I	キーワード(参考)
A 0 1 K 85/00		A 0 1 K 85/01	2 B 1 0 7
85/01		97/06	5 0 1 2 B 1 0 9
97/06	5 0 1	85/00	Z

審査請求 有 請求項の数6 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願2001-173379(P2001-173379)

(22)出願日 平成13年6月8日(2001. 6. 8)

(71)出願人 500298129

東京資料印書株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目7番3号東京
ビル

(71)出願人 539027194

石崎 三生

神奈川県川崎市麻生区片平3-12-6セジ
ュール対面102号

(72)発明者 石崎三生

神奈川県川崎市麻生区片平3-12-6セジ
ュール対面102号

(74)代理人 100079980

弁理士 飯田 伸行

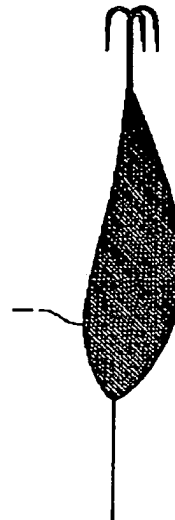
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 カラー蓄光塗料を使用した疑似餌及び疑似餌収納ケース

(57)【要約】 (修正有)

【課題】カラー蓄光塗料の乾燥過程において、蓄光剤の粒子が沈殿することなく塗料層内で拡散した状態を保つことができ、色塗料による下塗りを施さずに、色物や柄物の上から直接蓄光顔料を塗付しても、色物や柄物を損ねることなく、蓄光効率が高く発光時間の長い一定の輝度を保つことのできるカラー蓄光塗料を塗布した疑似餌及びその収納ケースを得る。

【解決手段】顔料合成樹脂に硬化剤を混合した塗料原液に、蓄光剤及び分散剤、沈降防止剤が混合され、前記顔料合成樹脂が乾燥する過程で、前記分散剤と前記沈降防止剤の作用によって、顔料合成樹脂層内に前記蓄光剤の粒子が拡散した状態を保ち続けるカラー蓄光塗料を、疑似餌1に塗布する。収納ケースは、疑似餌に光を照射する手段を有する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 顔料合成樹脂に、蓄光剤及び分散剤、沈降防止剤が混合され、前記顔料合成樹脂が乾燥する過程で前記分散剤と前記沈降防止剤の作用によって顔料合成樹脂層内に前記蓄光剤の粒子が拡散した状態を保ち続けることを特徴とするカラー蓄光塗料を塗布した疑似餌。

【請求項2】 顔料合成樹脂に硬化剤を混合した塗料原液に、蓄光剤及び分散剤、沈降防止剤が混合され、前記顔料合成樹脂が乾燥する過程で前記分散剤と前記沈降防止剤の作用によって顔料合成樹脂層内に前記蓄光剤の粒子が拡散した状態を保ち続けることを特徴とするカラー蓄光塗料を塗布した疑似餌。

【請求項3】 前記顔料合成樹脂80%～90%に硬化剤5%～7%及び沈降防止剤3%～15%を混合した塗料原液を重量100とした場合、蓄光剤の重量が50～100の割合で混合される請求項2に記載のカラー蓄光塗料を塗布した疑似餌。

【請求項4】 カラー蓄光塗料に対してウレタンを5:3ないし5:5の割合で混合した混合液を塗布した請求項1、2又は3に記載の疑似餌。

【請求項5】 ケース本体の内部に、疑似餌を固定するためのコルク及びスポンジと、小型タイプの光源及び電源と、光量を増大するための光反射シートとが備えられる請求項1、2、3又は4に記載の疑似餌を収納するための収納ケース。

【請求項6】 ケースの蓋を透明又は半透明とした請求項5に記載の疑似餌を収納するための収納ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、光が照射されると暗闇で発光する蓄光塗料が塗布された疑似餌に関するものである。

【0002】

【従来の技術】疑似餌は、海水（海洋、磯、砂浜、堤防その他の海岸など）、淡水（河口、河川、湖水、沼地、池など）における釣りに使用する活餌、生餌の代用として使用される。

【0003】疑似餌は、獲物の闘争本能や縄張りを守る（侵入者や侵入物に対して攻撃する）という習性を利用したり、獲物の生息地に餌として存在する生物に似せることによって、獲物に捕食させることを特徴とする。そのため、疑似餌は、獲物の興味を引く必要があるが、特に、光ったり輝いたりする物が獲物の興味を引き、有効である。

【0004】そこで、従来より、水中で光る塗料を用いた疑似餌が提案されている。例えば、特開平10-84818号は電池などを使用せずに長時間発光させるために、蓄光剤を混入した合成樹脂を利用した釣具を提供している。また、実用新案登録第3024904号や実用

新案登録第3025298号は、ユーロビウムなどで賦活されたストロンチウムアルミネート等を蓄光剤とする蓄光染料を用いた釣具や疑似餌を提供している。その他、特開2000-106790なども、蓄光塗料を用いた釣具を提供している。

【0005】しかしながら、従来例においては、疑似餌が発光する色合いについての改良がなされていなかった。従来、疑似餌に使用される塗料の発光色は、特定の色彩に限定され、あるいは色彩の選択に限界があった。すなわち、従来の発光色は、薄グリーン色（夜光虫、蛍等の発光色）の単色、あるいは、これに他色が薄ぼやけて混じった程度にしか発光せず、例えば鮮明な原色を発光する塗料を用いた疑似餌は存在しなかった。

【0006】疑似餌において、多彩な発光色を得ることができれば、釣果の飛躍的な増大を見込むことが出来る。というのは、疑似餌は獲物の習性や特性を利用するものであるから、疑似餌の使用にあたっては、それぞれの獲物の習性や特性、釣りの条件、環境に合わせたものを選択する必要があるところ、疑似餌の発光色についても、それらに合ったものを使用することができれば、より獲物の習性、特性、条件、環境に合致させることができるので、疑似餌の機能を高めることが出来るからである。

【0007】釣りの条件は、一様ではない。場所が海水（海洋、磯、砂浜、船、堤防その他海岸など）か淡水（河口、河川、湖沼、池など）か、時間が早朝か朝か昼か夕方か夜か、時期がいつか（四季のいつか）、地方地理的な各四季の特徴は何か、天候はどうか（雨、曇り、晴れ、風が強く水面が波立つ、風がなく止水状態等）、など多様である。また、釣りの環境についても、淡水、河川（森の中、草むらの中、岩場、流れが急、流れが緩やか、広い河、狭い川、落差のある川等）、湖沼（植物が多い、岩が多い、深い、浅い、澄んでいる、濁っている等）、海水、沿海（磯、浜辺、堤防、河口等）、海洋（船上等）、など多様である。

【0008】これらの条件や環境に、対象とする獲物の特性、習性、獲物の大きさ等を考慮した、それぞれに合った適切な色で発光する疑似餌が望まれている。例えば、夕暮れの沼で、疑似餌の目の部分を赤く光らせることが出来れば、獲物の餌である藻エビ等に極めて近い疑似餌とすることができる。また、特定の発光色のみでは、獲物の興味を長く引き付けることができないことから、多種類の発光色が望まれる。

【0009】この点に関する従来例としては、まず、特開2000-32876号の発明を挙げることができる。これは、夜光（ないし蓄光）塗料とホログラムシートを利用することによって、単一の疑似餌で浅場でも深場でも使用できる疑似針を提供している。しかし、特開2000-32876号は、光の反射を改良することはできても、複数の発光色を提供することはできない。次

10

20

30

40

50

に、特開平10-191837号の発明を挙げることが出来る。これは、部分的に塗布された蓄光塗料によって、別途塗装された着色部分を照らすルーアを開示する。しかし、発光する色彩自体は一色であるばかりか、発光する部分自体が一部に限られるため、発光輝度、照度は低く、多様な色にて発光する発光色を十分に得るとは言えないものである。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】上記の諸問題点は、所望する色彩によって発光する蓄光塗料が塗布された疑似10 餌を使用することで、解決することが出来る。発明者は、本願において、カラー塗料そのものが、暗闇などにおいて、その色彩のままで発光する又はその色彩とは別個の色彩で発光する塗料を塗布した疑似餌を提供する。

【0011】

【課題を解決するための手段】本発明は上記の如き観点に鑑みてなされたものであって、その主たる構成は、顔料合成樹脂に硬化剤を混合した塗料原液に、蓄光剤及び分散剤、沈降防止剤が混合され、前記顔料合成樹脂が乾燥する過程で前記分散剤と前記沈降防止剤の作用によって20 顔料合成樹脂層内に前記蓄光剤の粒子が拡散した状態を保ち続けるカラー蓄光塗料を塗布した疑似餌を提供しようとするものである。本発明は、カラー塗料が、暗闇などにおいて、その色彩又は別個の色彩によって発光する疑似餌という、従来とは全く異なった着想及び技術による疑似餌を提供する。

【0012】本発明は、カラー蓄光塗料の乾燥過程において蓄光剤の粒子が沈殿することなく塗料層内で拡散した状態を保つことができ、色塗料による下塗りを実施せずに、色物や柄物の上から直接蓄光顔料を塗付しても、色30 物や柄物を損ねることなく、蓄光効率が高く発光時間の長い一定の輝度を保つことのできるカラー蓄光塗料を塗布した疑似餌を得ようとするものである。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施例を詳細に説明する。なお、本発明は、これらの実施例の範囲に限定されるものでないことを理解されたい。まず、本発明の疑似餌に塗布する蓄光カラー蓄光塗料について説明する。

【0014】本発明に係るカラー蓄光塗料においては、40 カラー顔料に合成樹脂を所要の割合で混合したものを顔料合成樹脂1として用いる。このような顔料合成樹脂1に、蓄光剤2に加えて、分散剤（ワニス中に顔料が分散するのを助けるとともに分散された顔料の再凝集の防止を目的とする助剤）と沈降防止剤（インキに含まれる顔料の比重が大きいために顔料が容器の底に沈降するのを防止する助剤）とを混合してカラー蓄光塗料としてある。

【0015】A. このカラー蓄光塗料をプラスチック、カーボン、成型製品等の下地3に適用する場合は： 50

蓄光剤2としてパウダー状のものを用いているが、本願発明者が提案した蓄光剤（特開平10-147777号）の他、ケミテック株式会社製のピカリコ（CP-05、CP-10）（ SrO 、 Al_2O_3 、 B_2O_3 、 Eu_2O_3 、 Dy_2O_3 、 CaO ）、アミティ蓄光顔料等を用いることができる。

【0016】そして、顔料合成樹脂としては、十条ケミカル社のNSPインキ7000-1シリーズのものを用いてもよいが、以下の配合割合で作製することができる。

- 1) 顔料 0%~40%
- 2) 合成樹脂 20%~80%
- 3) キシレン 1%~5%
- 4) プロピレングリコールモノメチルエーテル 5%~10%
- 5) シクロヘキサノン 25%~50%
- 6) 芳香族混合炭化水素 10%~20%

【0017】そして又、分散剤、沈降防止剤としては、JA-141 遅乾性コンパウンド（溶剤型インキのダレ止め、腰切り、版の目詰まり防止と、インキの乾燥を抑制する活性剤の一つ。、プリント作業性向上に効果があり、ペースト上のため攪拌が容易。）を用いている。

【0018】B. このカラー蓄光塗料を伸縮性の生地・紙及びフィルム・折り曲げが必要とされる製品の下地3に適用する場合は：蓄光剤2は前記Aケースと同様のものが用いられる。

【0019】そして、顔料合成樹脂としては、十条ケミカル社のEXGインキ3500-1シリーズのものを用いてもよいが、以下の配合割合で作製することができる。

- 1) 顔料 0%~50%
- 2) 合成樹脂 20%~50%
- 3) シクロヘキサノン 20%~80%
- 4) エチレングリコールモノブチルエーテル 5%~10%

【0020】そしてまた、分散剤、沈降防止剤は、前記Aケースと同様のものが用いられる。

【0021】以上の材料を用いて、カラー蓄光塗料を作成する。顔料合成樹脂80%~90%に、硬化剤5%~7%及び沈降防止剤3%~15%を混合した遅乾性コンパウンド10%~20%を混合して塗料原液を作成し、この塗料原液の重量を100とした場合、蓄光剤の重量を50~100の割合で混合してカラー蓄光塗料を作成するのが好ましい。

【0022】以下、一例として、本願に係るカラー蓄光塗料を得るまでを、具体的手順に沿って示す。まず、合成樹脂として、熱可塑性ビニール樹脂と熱可塑性アクリル樹脂を、有機溶剤にケトン系、グリコールエーテル系溶剤を用い、これにシリコン系消泡剤、錫系安定剤を添

加したものを機械攪拌により加熱溶解し、ワニス1を得た。次に、合成樹脂として熱可塑性セルロース系樹脂を、有機溶剤にケトン系、グリコールエステル系、芳香族炭化水素系溶剤を用いたものを機械攪拌により加熱溶解し、ワニス2を得た。

【0023】上記ワニス1とワニス2及び追加分のシリコン系消泡剤を機械攪拌により混合したものを塗料原料とした。

【0024】また、塗料原料100部に対しアゾ系赤色有機顔料を10部、湿潤分散剤としてポリカルボン酸、
10 アーマイド系添加剤を2〜4部、及び有機溶剤を添加したものを3本ロールミル機を用いて5 μ m以下に分散させたものを着色ペーストとして得た。

【0025】次に、塗料原料50部に対し、蓄光剤としてケミテック社製の「ヒカリコCP-05」を50部、蓄光顔料の沈下防止用として十条ケミカル社製のJ A-141遅乾性コンパウンドを10部、また着色ペーストを1部配合し、機械攪拌により均一に分散することで「カラー蓄光塗料」を得た。

【0026】本願に係るカラー蓄光塗料は、対象物に塗
20 装すると、遅乾性コンパウンド及び顔料合成樹脂が乾燥していく過程で、分散剤と沈殿防止剤との作用により蓄光剤の粒子が顔料合成樹脂層内で沈殿することなく均一に拡散した状態を保ち続ける。すなわち、本発明に係るカラー蓄光塗料を使用すれば、塗付を簡単にでき、且つ、カラー顔料と蓄光剤を区分することなく、カラー全体全面成型を施したものがカラーで発光することができる。

【0027】以上に対し、従来の疑似餌に使用される蓄光塗料は、カラー顔料と蓄光剤を別々に塗付を行うこと
30 から、カラー顔料部分と蓄光塗料部分とがはっきり区分されてしまう。また、暗闇においては、蓄光部分は、薄グリーン色に発光するにすぎない。

【0028】以上から明かとなるとおり、本発明に係るカラー蓄光塗料は、従来必要とされていたカラー部分と蓄光部分との分離や蓄光剤の輝度を上げるために白塗料による下塗りをすることなく、明るい状態においてもその色や柄を視認できると共に、暗闇では被塗装物の塗装面をカラー蓄光顔料色で発光させることができる。

【0029】なお、本発明による蓄光塗料は、シンナー等を使用することがないため、プラスチックチップや繊維製品等に用いることもできる。

【0030】以上の例で説明した本発明に係るカラー蓄光塗料を、図1に示すように、疑似餌1の表面に塗布する。塗布は、エアブラシで行うこともできるし、はけ塗り、含浸などで行ってもよい。

【0031】塗布の仕方により多様な疑似餌とすることができる。本発明によれば、例えば、図2のように、疑似餌に青色の蓄光塗料2を鱗を模して塗布すれば、塗布
50

した部分は、水中で青色にて発光するので、より実物の魚に近い鱗を模倣することができる。そのため、より実物の魚に近い疑似餌とすることが可能になる。

【0032】また、別の例として、本発明によると、赤色の蓄光塗料3を、図3のように点状に塗布すれば、塗布した部分が水中で赤色にて発光することで魚眼を模倣できるし、図4のように線状に塗布すれば、傷を負った魚を模倣することができる。このように、本発明によれば、これら多くのバリエーションを応用することにより、魚類の多様な習性に適切に対応することが、従来に比して飛躍的に実現可能となる。

【0033】疑似餌に本発明に係る蓄光塗料を塗布し、その上からウレタンによってコーティングを施してもよい。ウレタンによって表面をコーティングをすると、蓄光塗料がはがれにくく、耐久性を増すことができる。そのため、併せて、光の吸収、発色、輝度を上げることも可能となる。図5は、本発明に係る蓄光塗料5を塗布した疑似餌6の表面に、ウレタン7によるコーティングを施した場合の断面図である。

【0034】ウレタンと本発明に係る蓄光塗料は別々に塗布せず、両者を予め混合した液体を作成して、これを疑似餌に塗布することもできる。これは、2度塗りの手間が省けるばかりでなく、塗料に透明感を加えることが可能となる。また、蓄光塗料に光が通りやすくなるので、蓄光材が光を吸収しやすくなるほか、下地の疑似餌の金属部分まで光が通り、それが反射されることによって、蓄光材により多くの光を吸収させることができる。実験結果によれば、混合液におけるウレタンと本発明に係る蓄光塗料の割合は、発色と輝度のかねあいから、
3:5ないし5:5が望ましい。

【0035】本発明の疑似餌は、暗闇で使用する場合は、ペン型ライトなどで数十秒ほど光を照射し、蓄光剤に光を蓄えた後に使用する。本発明に係るカラー蓄光塗料を塗布した疑似餌は、いずれも同一の蓄光剤（ケミテック株式会社製ヒカリコCP-05）を用いた従来の蓄光塗料、すなわち、白色の塗料の下塗りの上に塗付されている物やカラー顔料部分と蓄光塗料と分離塗付されている従来の蓄光塗料を塗布した疑似餌に比して、同一時間の光の照射に対する発光時間は劣らない。

【0036】すなわち、前記の例において得た本発明に係るカラー蓄光塗料を疑似餌に塗布したところ、60℃10分温風乾燥後の塗膜は可視光下で赤色であった。この疑似餌をブラックライトに3分間露光させた後に消灯したところ、鮮やかな赤色の発光が認められた。この時の発光輝度はトプコン社製輝度計Bm-5A（2度視野）にて2.3320cd/m²であった。暗室中に疑似餌を4時間放置した後の輝度は0.0008cd/m²まで低下していたが、赤色の発光は確認できた。これに対し、従来の蓄光塗料を塗布した疑似餌をブラックライトに3分間露光させて消灯したところ、同程度の発光

が認められたが、発光色は薄グリーン色であった。また、暗室中に疑似餌を4時間放置した後にも多少の発光が認められたが、その発光色は薄グリーン色であった。

【0037】なお、本願の蓄光塗料によれば、蓄光剤の重量を大きくすることにより、発光輝度を高めることができる。これに対し、従来の疑似餌に使用される蓄光塗料によれば、蓄光剤の重量を大きくすることによって発光輝度を高めることはできない。なぜなら、従来の蓄光塗料によれば、蓄光剤の重量を大きくすればするほど比重が相対的に大きくなり、蓄光剤が下地側に沈殿する割合が高くなってしまいうからである。

【0038】また、暗闇においては、本発明による蓄光塗料を塗布した疑似餌は、当該顔料の色彩にて発光する。つまり、本発明によれば、塗布した塗料が、例えば前記実施例のように赤の顔料の場合は、暗闇などで十分な照度・輝度を保ちつつ赤のままで発光し、また青の顔料の場合は、暗闇などで、十分な照度・輝度を保ちつつ青のままで発光する。また、配合を調整すれば、日中視認される色と、暗闇で発光する色を異なるものとする事が可能である。この点、従来の疑似餌に使用される蓄光塗料においては、いかなる色彩の顔料の場合であっても、暗闇で薄グリーン色でしか発光せず、又は十分な照度・輝度で発光しない。

【0039】図6は、本発明の疑似餌を暗闇等で直ちに使用可能にするための、疑似餌収納ケースの一例を示している。ケース本体8の内部には、コルク9とスポンジ10が備えられている。疑似餌の針をコルクに掛け、スポンジの上に置くことで、疑似餌が固定される。図6の例によると、ケースの蓋の内側部分に、小型タイプの蛍光灯などの光源11と、電源12が備え付けられる。電源は、例えば電池などを用いる。蓋の内側の全面には、光量を増大するために、例えば、鏡又は光を反射するシート13が貼付される。

【0040】上記収納ケース内の光源の電源を入れた状態で、本発明の疑似餌をケース内に収容する。疑似餌はケース内で光の照射を受け続けるため、蓄光塗料に含まれる蓄光剤は、疑似餌使用時には、発光するに十分な光を吸収している。そのため、本ケースに収納していれば、暗闇等においても、疑似餌使用時に改めて光を照射することなく、直ちに使用することができる。

【0041】前記ケースの蓋を透明又は半透明にすることもできる。その場合は、夜間や暗闇のときを除いて外光を入射させることができるので、疑似餌の蓄光の増大に寄与することができる。

【0042】

【発明の効果】以上のとおり、本発明に係る疑似餌は、明るい状態においては、その色や柄を視認することができ、暗闇や水中（深場や濁った水などを含む）においては、塗装面がカラー蓄光顔料色で発光する。したがって、まず、獲物の特性に応じた適切な疑似餌を提供する

ことが出来る。例えば、自然界に存在する活餌に非常に近い疑似餌とすることができる。また、従来存在しなかったような、獲物の興味を引く発光色を有する疑似餌を作ることも可能となる。本発明によれば、無限に近いバリエーションの疑似餌を得ることが可能である。

【0043】次に、曇天、薄曇り、雨天、水が濁っている場合等、従来の疑似餌では一色による発光のために十分な効果が得られない場合でも、本発明によれば、多彩な色の発光が可能であるため、獲物へのアピール性などの十分な効果を得ることができる。

【0044】また、本発明によれば、多彩な色の発光が可能であるため、従来限定されていた、疑似餌によって釣ることができる獲物の選択の幅を、広げることが可能となる。

【0045】さらに、明け方や夕方など、刻々と明るさが変化する時間帯においては、従来の疑似餌は、獲物へのアピール性を持続させるのが困難であった。これに対して、本発明によれば、発光色が多彩であるため、明るさが変化しても、獲物へのアピール性を持続させることができる。また、釣りの条件や環境に、天候が悪くなる、水が濁る等の変化があっても、本発明によれば、発光色が多彩であるため、使用中の疑似餌をそのまま継続して使用することができる。これは、疑似餌を取り替える時間や手間を省くとともに、必要な疑似餌の数を少なくする事が出来る（コストを抑える）という効果がある。

【0046】なお、本発明に係る疑似餌は、電気や電球などを備える必要がないため、セッティングが簡易であるとともに、コストを抑えることが出来る。また、本発明の疑似餌に表面塗装剤を塗り、その上にアワビシールなどを貼り付たり、ブラックライトペンにより色や発色の濃淡を作り出すなど、簡易且つ低コストによって様々なバリエーションを加えることが可能である。

【0047】また、本発明に係る疑似餌ケースにおいては、疑似餌を収納すると同時に、暗闇で光を照射するという手間を省くことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、疑似餌の表面に本願発明にかかる蓄光塗料を塗布した場合の一例を示す図である。

【図2】図2は、疑似餌の表面に本願発明にかかる蓄光塗料を塗布した場合の他の一例を示す図である。

【図3】図3は、疑似餌の表面に本願発明にかかる蓄光塗料を塗布した場合の他の一例を示す図である。

【図4】図4は、疑似餌の表面に本願発明にかかる蓄光塗料を塗布した場合の他の一例を示す図である。

【図5】図5は、疑似餌の表面に本願発明にかかる蓄光塗料を塗布し、さらにウレタンでコーティングした一例の疑似餌の断面図である。

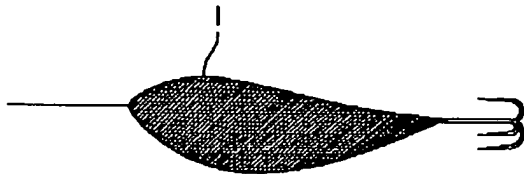
【図6】図6は、本発明にかかる疑似餌収納ケースの一例を示す図である。

【符号の説明】

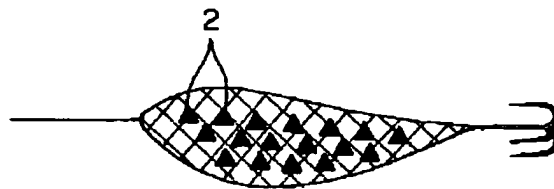
- 1 疑似餌
- 2 青色の蓄光塗料
- 3 赤色の蓄光塗料
- 4 赤色の蓄光塗料
- 5 蓄光塗料
- 6 疑似餌

- 7 ウレタン
- 8 疑似餌収納ケース本体
- 9 コルク
- 10 スポンジ
- 11 光源
- 12 電源
- 13 鏡又は反射シート

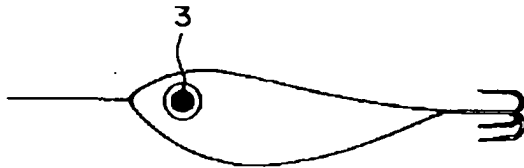
【図1】



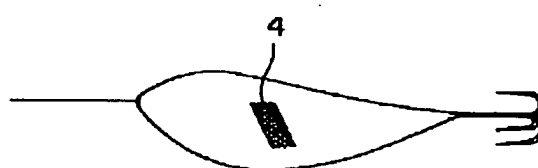
【図2】



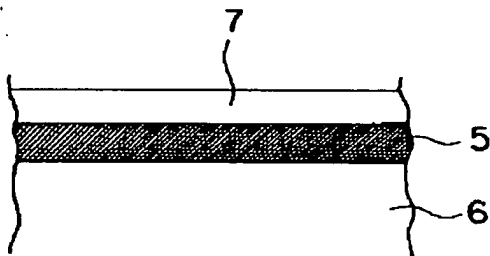
【図3】



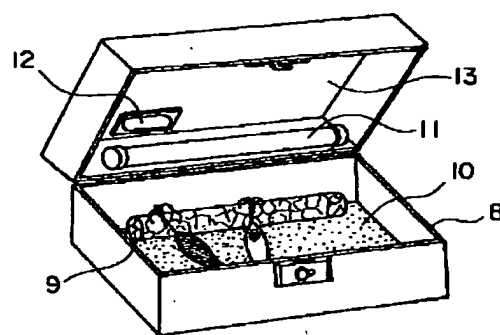
【図4】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

(72)発明者 金野隆
東京都千代田区丸の内2-7-3 東京資
料印書株式会社内

Fターム(参考) 2B107 BA41 BA61 BB02 BB07
2B109 BA01

FAT-NO: JP02002360126A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002360126 A
TITLE: ARTIFICIAL BAIT USING COLOR LUMINOUS
COATING AND ARTIFICIAL BAIT STORAGE CASE
PUBN-DATE: December 17, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ISHIZAKI, MITSUO	N/A
KONNO, TAKASHI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
TOKYO SHIRYO INSHO KK	N/A
ISHIZAKI MITSUO	N/A

APPL-NO: JP2001173379

APPL-DATE: June 8, 2001

INT-CL (IPC): A01K085/00, A01K085/01 , A01K097/06

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide both an artificial bait coated with a color luminous coating in which in a drying process of a color luminous coating, particles of a luminous agent can be kept in a diffused state in a coating layer without precipitation, neither a colored material nor a patterned material is impaired even if a luminous pigment is directly applied to the colored material or the patterned material without undercoating with a colored coating, a light storage efficiency is high, an emission

time is long and a
constant luminance can be maintained and its storage case.

SOLUTION: A coating stock solution obtained by mixing a pigment blended synthetic resin with a curing agent is formulated with a luminous agent, a dispersant and an anti-settling agent. The color luminous coating in which the particles of the luminous coating can be continuously kept in a diffused state in the pigment blended synthetic resin layer by the actions of the dispersant and the anti-settling agent in the drying process of the pigment blended synthetic resin is applied to an artificial bait 1. This storage case has a means for irradiating the artificial bait with light.

COPYRIGHT: (C) 2003, JPO

DERWENT-ACC-NO: 2003-527322

DERWENT-WEEK: 200351

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Lure has coating of luminous color
paint obtained by mixing luminous agent, dispersing
agent, sedimentation preventing agent and pigment
synthetic resin

PATENT-ASSIGNEE: ISHIZAKI M[ISHII] , TOKYO SHIRYO INSHO
KK[TOKSN]

PRIORITY-DATA: 2001JP-0173379 (June 8, 2001)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PAGES	PUB-DATE	MAIN-IPC
JP 2002360126 A		December 17, 2002	N/A
006	A01K 085/00		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DATE	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
JP2002360126A		N/A	
2001JP-0173379		June 8, 2001	

INT-CL (IPC): A01K085/00, A01K085/01 , A01K097/06

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2002360126A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - A luminous agent, dispersant and sedimentation preventing agent are mixed with pigment synthetic resin. The mixture is applied on the surface of a lure (1) and dried, and maintained in a state in which the particles of luminous agent is diffused by the action of dispersant and sedimentation preventing agent.

DETAILED DESCRIPTION - An INDEPENDENT CLAIM is included for storage case for accommodating the lure, which has an optical reflecting sheet for increasing the quantity of light, cork and sponge for fixing the lure, a light source and power supply.

USE - As lure.

ADVANTAGE - The lure has excellent luminous effectiveness, maintains a fixed brightness for longer duration without spoiling a colored material even in deep place and muddy water, and is simple and cheap.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the lure at the time of luminous paint application.

Lure 1

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/6

TITLE-TERMS: LURE COATING LUMINOUS COLOUR PAINT OBTAIN MIX LUMINOUS AGENT

DISPERSE AGENT SEDIMENT PREVENT AGENT PIGMENT SYNTHETIC RESIN

DERWENT-CLASS: A86 A96 P14

CPI-CODES: A08-E01; A12-F01;

ENHANCED-POLYMER-INDEXING:

Polymer Index [1.1]

018 ; P1592*R F77 D01

Polymer Index [1.2]

018 ; ND01 ; ND07 ; N9999 N7147 N7034 N7023 ; N9999

N6780*R N6655

; K9483*R ; K9676*R ; K9712 K9676 ; B9999 B4308 B4240 ;

Q9999 Q7158*R

Q7114 ; Q9999 Q7578 ; K9416

Polymer Index [1.3]

018 ; A999 A102 A077 ; B9999 B4308 B4240

Polymer Index [1.4]

018 ; A999 A624*R A566

Polymer Index [1.5]

018 ; A999 A157*R

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C2003-142285

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2003-418559

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☒ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.